



第32期 事業報告書

(自令和6年4月1日 至令和7年3月31日)

1 株式会社の現況に関する事項

1-1 事業の経過及び成果

令和6年度は、長く続いたコロナ禍が収束し、観光をはじめ人流は回復し、インバウンドにいたっては、訪日外国人客が3,687万人で過去最高と公表されているとおり、コロナ前を超える勢いで推移いたしました。当社におきましても、催事・イベントの来場者や売上は伸びており、コロナ禍からの脱却を実感できるようになりました。一方で、ウクライナや中東など世界情勢の不安定な状況は続いており、燃料費の高騰や物価の上昇、労務単価の上昇、施設負担金の増加とともに、常連大口顧客のキャンセル、大規模設備改修工事に伴う利用制限等、当社の経営にとっては依然厳しい環境が続きました。

そのような状況の中、展示場部門では、引き続き催事・イベント主催者とのコミュニケーションを重視し、主催者をしっかりサポートすることに注力してまいりましたが、中でもコロナ禍を経ての顧客層の変化を受け、ライブコンサート等、新たなニーズへの柔軟な対応を進めてまいりました。

伝統産業ミュージアムにおいても、これまでの取組を充実強化するとともに新たな取組として、自主企画事業としては初めてとなる公募展を開催いたしました。これにつきましては、全国からの募集とともに、作品に対して一般来館者に投票いただく「オーディエンス賞」を設けたことも関係者の来館の促進につながり、こちらも今後の集客に向けて多くの収穫を得ることができました。

ミュージアムショップでは、好調なインバウンドが売上を後押しするとともに、恒例となったショップ企画展「珈琲とうつわ」、「にゃんと工芸」等の売上が好調で商品売上は当初予算を大きく上回ることができました。

また、記念品の受注販売については、大阪・関西万博のオフィシャルグッズの制作を受注することができ、売上増につなげることができました。

地域の活性化の取組も、社内プロジェクトを立ち上げ実施しました「岡崎マルシェ」や「FOOD & CRAFT MARKET」の物販イベントは大勢の方にお越しいただきましたし、音楽イベントの「ライブスクエア@みやこめっせ」も定番イベントとして認知されつつあり、岡崎エリアの賑わいの創出に貢献できたものと考えています。

施設・設備面では、地下1階の照明の一部改修を実施したことにより、特別展示場はLED照明となり照度が改善され、会場内の展示品が映える空間になりました。

6年12月には当社にとって最も重要な第6期（7年度～10年度）次期指定管理者の指定を受けることができましたが、これまでの取組により新たな指定管理期間において更に経営を安定させ、サービスを向上させるための基盤を確立できたと考えています。

(1)業績

燃料費の高騰、物価の上昇、労務単価の上昇等厳しい状況に加え、現指定管理期間の最終年度である今期は、京都市に納付する施設負担金が最高額となったこともあり、営業利益をプラスとすることはできませんでした。

展示場部門については、大口顧客のキャンセルや大規模設備改修工事に伴う利用できない展示場の面積増により、稼働率は目標の50%に届かなかったものの、情報通信系の学術会議、ライブコンサートや国際交流イベント等、新規の大型催事が獲得できたことから施設利用料収入は524,658千円（前年度比+13,736千円/102.7%）となり昨年度を上回る実績をあげることができました。

また、伝統産業ミュージアムについては、観覧料収入は12,951千円でしたが、免税売上を含む商品売上は73,206千円（前年度比+12,048千円/119.7%）となるなど、工夫を凝らしたショップ企画展の開催やミュージアムの有料観覧者数の半数以上を占める外国人観光客の増加により好調に推移いたしました。

(2)損益

これらにより、会社全体の売上高についても、757,672千円（前年度比+47,672千円/106.7%）と昨年度を上回りましたが、施設負担金（1億4,500万円）、水道光熱費の増加（前年度比+27,980千円/135.1%）など、売上原価と販管費が増加（前年度比+61,955千円/108.7%）したため、営業利益は△13,270千円（前年度比△14,283千円）となりました。

また、営業外損益については、自動販売機手数料収入に加え、6年3月からスタートしたクラウドファンディング事業において、写真集の完成が7年度にずれ込んだことから、ご支援金の収入に対応する主だった経費執行が翌年度に持ち越しとなったことなどにより、営業外損益が8,452千円となり、経常利益を△4,818千円（前年度比△11,448千円）まで改善することとなりました。

今期は、特別損益については発生がありませんので、当期純利益は△4,998千円（前年度比△7,218千円）となり、3期連続の黒字決算には至りませんでした。

【参考】

区分	3年度	4年度	5年度	6年度
1株当たり当期純利益(円)	14,585	9,403	1,233	△2,777
総資産(千円)	827,713	741,412	757,188	774,321
純資産(千円)	444,324	461,251	458,071	452,262
1株当たり純資産額(円)	246,847	256,250	254,484	251,257

(3) 営業状況

ア 展示場等年間稼働率等

稼働率は49.21%（開催件数360件）^{※1}となりましたが、目標の面積稼働率50%には届きませんでした。これについては、上半期の利用は好調に推移しましたが、下半期は新規のご利用はあったものの、特に10月、11月が固定客の催事取り止め等により40%台にとどまったこと、大規模設備改修工事により利用できない面積が増加したことが全体として伸びを欠いた要因と考えています。

そのような状況ではありますが、今期は、みやこめっせで初めてライブコンサート^{※2}が開催される等、新規顧客の獲得も進んでおり、リピーター化につなげていくことで今後の利用の維持拡大が図れるものと期待しています。

これらの取組により、年間来館者数は980,904人となり、昨年度（970,283人）から若干増加しました。

※1 5年度：稼働率46.03%/開催件数344件

※2 10-FEETライブ：第3展示場にスタンディングで8,000人の来場者を想定

イ 伝統産業ミュージアム事業

① ミュージアム観覧料収入は12,951千円となり、前年9月から観覧料設定した昨年度との観覧料収入同月対比[※]では114%と増加しています。自主事業として実施した公募展等の取組が観覧料収入の増加につながりました。

※ 9月～3月（7か月）の有料観覧者数と観覧料収入

5年度：15,562人/6,568千円 6年度：17,559人/7,468千円

② ミュージアムショップ店舗においては、インバウンドが好調に推移したことに加え、「珈琲とうつわ4th」、「にゃんと工芸」等のショップ恒例の企画展も好評を博し、オンラインショップを含めた売上は73,206千円（前年度比+12,048千円/119.7%）となりました。

③ 学術会議や周年事業の記念品に京都の伝統工芸品の活用を提案する取組に関しては、MICE関連が未だ回復途上にあり厳しかったものの、大阪・関西万博のオフィシャルグッズの制作を受注できたことにより販売額を伸ばすことができました。

また、観光客増加の影響を受け、オープン時からプロデュースを手掛けている京都東急ホテル東山内のショップ「Craft Editions produced by Kyoto Museum of Crafts and Design」への商品提供も引き続き好調に推移しており、これらを合わせた販売収入は 35,054 千円（前年度比+2,760 千円/108.5%）となりました。

- ④ 京都の伝統産業を体験・見学できる「工房コンシェルジュ」事業については、事業収入は 4,862 千円（前年度比△1,785 千円/73.1%）と昨年度を下回りました。これにつきましては、来期に向けて、より収益額の大きい団体顧客向け事業への見直しを予定しています。

ウ 駐車場利用料収入

開館 90 周年記念展「村上隆 もののけ 京都」が開催された京都市京セラ美術館をはじめ、岡崎公園でも多くのイベントが開催される等、岡崎エリアの賑わいが回復していることもあり、駐車場利用料収入は、77,291 千円（前年度比+5,188 千円/107.2%）となりました。

1-2 当該事業年度における主要な事業内容

- (1) 京都市勧業館みやこめっせ事業
展示場及びその付随施設、会議室、ギャラリーの賃貸及び管理運営、催事の企画運営サービス、駐車場管理
- (2) 京都伝統産業ミュージアム事業
京都伝統産業ミュージアムの運営、ミュージアムショップ及びオンラインショップ等による伝統工芸品の販売、企画展の実施、京都市受託事業の実施
- (3) 自主企画事業
産業振興、文化向上、地域貢献に資する事業の実施

1-3 当該事業年度における主要な営業所及び組織、使用人の状況

- (1) 主要な営業所

本店 京都市左京区岡崎成勝寺町 9 番地の 1

- (2) 使用人の状況（令和 7 年 3 月 31 日現在）

区分	従業員数 (人)	前事業年度 末比増減(人)	平均年齢 (歳)	平均勤続 年数(年)
男性	17 (4)	2 (3)	47	7
女性	31 (17)	△5 (△4)	46	7
合計又は平均	48 (21)	△3 (△1)	46	7

注 () 内は臨時社員の内数、特定イベントの臨時要員を除く。

1-4 主要な借入先

(令和7年3月31日現在)

借入先	借入金の残高(円)
株式会社三菱UFJ銀行	13,042,000
株式会社京都銀行	13,042,000
京都信用金庫	13,031,000
京都中央信用金庫	12,864,000
合計	51,979,000

2 株式に関する事項

2-1 株式の状況

発行可能株式の総数 4,000 株

発行済株式の総数 1,800 株

2-2 当事業年度末の株主数

9名

株主名	当社への出資状況	
	株式数	持株比率(%)
京都市	1,080	60.0
京都府	100	5.6
京都商工会議所	100	5.6
公益財団法人京都伝統産業交流センター	100	5.6
公益社団法人日本図案家協会	100	5.6
株式会社三菱UFJ銀行	90	5.0
株式会社京都銀行	90	5.0
京都信用金庫	80	4.4
京都中央信用金庫	60	3.3
合計	1,800	100.0